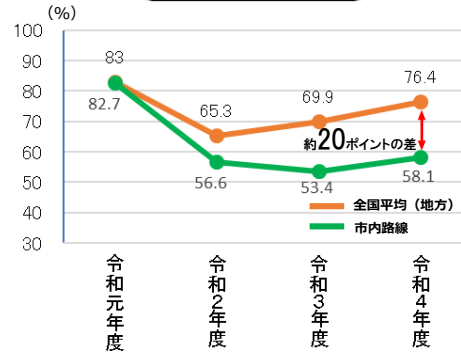


市内路線バスにおける運賃の見直しについて - 意見募集 -

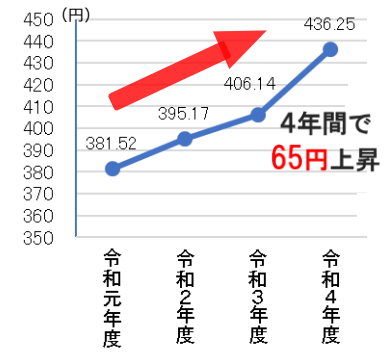
- バス運転手は、**高齢化**や**賃金水準の低下**などにより、**運転手不足が深刻化**しており、令和元年度と比べると、約18%減便するなど、現状の**路線やダイヤを維持することが困難**な状況となっています。
- コロナ禍の影響によりバス利用者は大きく減少し、近年の**収支率**は、全国平均（地方都市）が70%台と回復傾向にあるものの、**本市では50%台**となっています。また、**運賃収入が減少**している一方で、**運行単価は燃料費の高騰**などにより**上昇**しています。
- こうした状況を踏まえ、「千歳市地域公共交通活性化協議会」では、**持続可能な公共交通を実現**するため、運転手の待遇や労働環境改善につながる収支改善に向け、路線バスの**運賃改定(値上げ)**が**重要**であるとして、協議を行っているところです。
- つきましては、**市内の路線バスの状況について、本紙のとおりお示するとともに、運賃を改定することについて、みなさまからのご意見をお聞かせください。**

4 収支率の推移



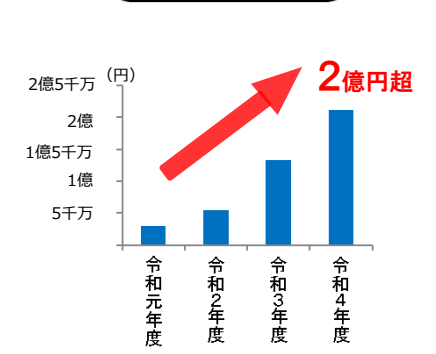
市内バス路線収支率
(出典: 千歳市企画部交通政策課)

5 運行単価



地域別キロ当たり標準経常費用: 北海道
(出典: 国土交通省「補助ブロックごとに定める標準経常費用について」)

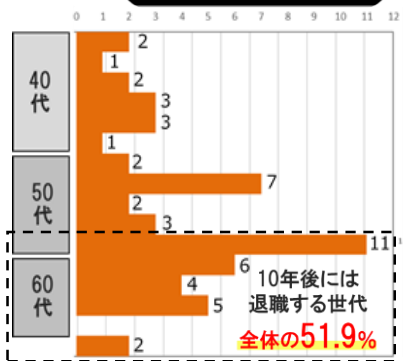
6 補助金の増加



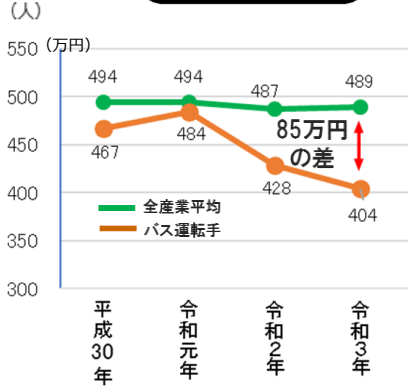
市補助金支出額の推移
(出典: 千歳市企画部交通政策課)

運賃見直しの背景

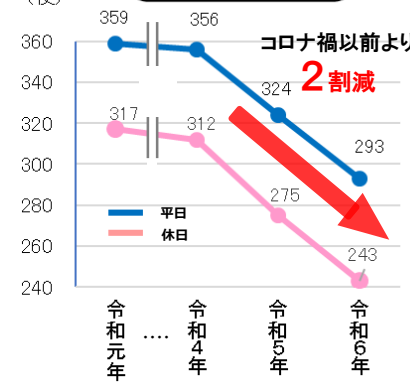
1 運転手の高齢化



2 賃金水準



3 便数の推移



市内路線バス便数
※地域間幹線系統含む
(出典: 千歳市企画部交通政策課)

- ④ コロナの影響などから、利用者の減少に伴い運賃収入が減少した一方で、運行単価の上昇により運行経費が増加しており、収支率は50%程度まで減少し、全国平均と約20ポイント差があります。
- ⑤ バス事業者の運行単価は、近年、人件費や燃料費の高騰により上昇しています。
- ⑥ 市はバス事業者の赤字相当額を補助しており、利用者の減少や運行経費の増加により、補助金が2億円を超える状況にまで増加しています。

過去の運賃改定状況

- ▶平成19年4月1日 理由: 燃料油脂費の高騰
初乗り運賃160円 → 180円 (+20円)
- ▶平成26年4月1日 理由: 消費税率引上げ
初乗り運賃180円 → 190円 (+10円)
- ▶令和元年10月1日 理由: 消費税率引上げ
初乗り運賃190円 → 200円 (+10円)

周辺自治体の運賃改定状況 ※一例

No	自治体名	対象バス事業者	時期	改定額	改定後の運賃(一例)
1	札幌市	札幌ほんけい、ジェイ・アール北海道バス、じょうてつ、北海道中央バス、夕張鉄道	令和6年12月	30円	210円→240円、240円→270円
2	苫小牧市	道南バス	令和5年12月	20~110円	210円→230円、230円→280円、240円→320円、250円→360円
3		中央バス	令和6年12月	40円	200円~240円

- ・消費税率引き上げ時を除き、平成19年4月以降、17年間、運賃の見直しを行っていません。
- ・周辺の自治体では、燃料費や人件費の高騰に伴う運賃改定を実施(予定)しています。

路線バスは、日常生活に不可欠な移動手段として重要な社会資本であり、本紙のような状況を踏まえ、持続可能な公共交通の実現に向け、運賃の見直しについて協議しておりますので、みなさまからのご意見をお願いします。

- ① 運転手の高齢化が進み、10年後には**約50%を超える方が定年**を迎えます。
- ② バス運転手の賃金は、令和3年度において、全産業平均より**85万円低い**状況となっています。
- ③ 路線バスの便数は、令和元年度と比べ**約81%**となっています。(平日)